



The First Century of
the Yokohama Bluff
Cosmopolitans

横浜山手 コスモポリタンたちの 1世紀



平成22年7月28日(水)~10月24日(日)

- 開館時間●9:30AM~5:00PM(入館は4:30PMまで)
- 休館日●月曜日(9月20日・10月11日は開館)および9月21日(火)、10月12日(火)
- 入館料●大人200円、小中学生100円
- 主催●横浜開港資料館 ●共催●横浜市教育委員会
- 後援●朝日新聞横浜総局、神奈川新聞社、
毎日新聞社横浜支局、読売新聞東京本社横浜支局、
横浜外国人社会研究会



横浜開港資料館
YOKOHAMA ARCHIVES OF HISTORY

旧英国総領事館 みなとみらい線日本大通り駅下車
〒231-0021 横浜市中区日本大通3
TEL.045-201-2100
ホームページ: <http://www.kaikou.city.yokohama.jp/>

横浜山手 コスモポリタンたちの1世紀

世界有数の国際都市横浜は、開港後に作られた外国人居留地がその始まりです。欧米各国から来港した外国人の多くは商人でした。かれらは山手に家族と暮らして山下町の外国人ビジネス街で仕事をするという生活を楽しみ、国籍の違いを超えたコスモポリタンな社会を築いていきました。しかし関東大震災、さらに第2次世界大戦がおきると、多数の人びとが長年、住み馴れた横浜を去りました。居留地制度の撤廃と第1次世界大戦の影響も小さくありませんでした。

一方で横浜にとどまった人びと、再び戻ってきた人びとも少なからずいました。本展示では、ご子孫の家々に伝わる思い出の品々を通して、横浜の欧米外国人社会の歴史をたどります。

●展示構成

- (1) 山手の昔の風景
- (2) 山手の昔の暮らし
- (3) 外国人居留地社会の繁栄
- (4) 居留地制度撤廃とその後
- (5) 第1次世界大戦と外国人社会
- (6) 関東大震災の大きな爪痕
- (7) 第2次世界大戦のいたみ
- (8) 資料に刻まれた家の記憶
- (9) 統計から見た横浜外国人社会の変容



都田村(現都筑区池辺町)で再生したフェリスの風車とデンマーク人グラノー家 戦前
ウィリアム・F・マール氏蔵写真アルバムから



磯子の松田理吉が撮影した震災写真帳
レディー・パウチャー(ドロシー・プリントン氏) 寄贈・当館蔵

〔展示記念連続講座〕

●時期：平成22年9月18日～10月23日、
毎土曜日(連続6回)

●時間：午後2時～4時(開場1時30分)

●会場：横浜開港資料館講堂

●定員：80人(応募多数の場合は抽選)

●受講料：3,000円(全6回通し)

●申込・問合先：横浜開港資料館講座係

●申込方法：往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記の上、

〒231-0021 横浜市中区日本大通 3

横浜開港資料館講座係まで(はがき1枚につき1名様のみ)

8月31日(火)必着

●第1回：9月18日

「横浜と東京の外国人社会」櫻井良樹(麗澤大学教授)

●第2回：9月25日

「関東大震災と横浜・神戸の外国人」今井清一(横浜市立大学名誉教授)

●第3回：10月2日

「アメリカ陸海軍日本語留学生」天川晃(放送大学教授)

●第4回：10月9日

「ふたつのドイツ人家族」大西比呂志(フェリス学院大学教授)

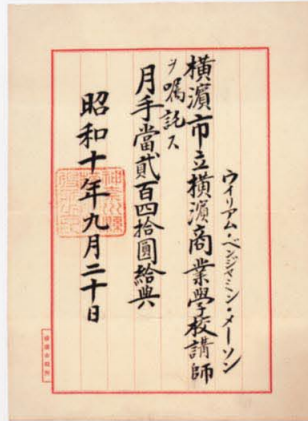
●第5回：10月16日

「山手のアルメニア人一家」大山瑞代(日英交流史研究者)

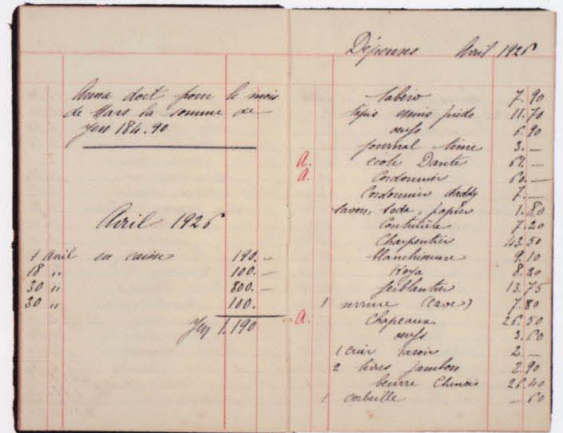
●第6回：10月23日

「戦争と外国人調査」本宮一男(横浜市立大学教授)

イギリス人競売人イトン愛用の象牙のハンマー 深津まき氏寄贈・当館蔵「J・L・O・イトン家資料」



横浜市立横浜商業学校講師の委嘱状
W・B・メーソン(ジュニア)宛て 昭和
10年9月20日付 樋口みどり氏寄贈・
当館蔵「W・B・メーソン関係資料」



戦前のデンティチ家の家計簿 1925-30年 リナ・デンティチ氏蔵



2度の戦火と震災をくぐり抜けたミュンヘン製のチター フランツ・メッガー氏蔵



イタリア系商社デローロ商
会の日本人番頭に贈られた「創立六十年紀年デル
ロ商会」銀杯 [1928年]
杯の底に「デルロ」の文字
がみえる 渡辺治氏寄
贈・当館蔵

次回展示予告

「イセザキ界限140年」(仮称)

横浜のときめきをあつめて

平成22年10月27日(水)～平成23年1月30日(日)



交通/みなとみらい線「日本大通り」駅③番出口から徒歩2分
JR関内駅南口・市営地下鉄「関内」駅下車徒歩15分